

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10050010

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	6 下水道事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武浄化センター機器分解整備：165基～継続事業
基本施策	17 上・下水道の整備	事業優先度	B	
単位施策	2 下水道の普及促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	雄武浄化センター機器分解整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	分解整備機器		#N/A	
事業目標	43基	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	雄武浄化センター機器分解整備～46基	雄武浄化センター機器分解整備 ・No.3返送汚泥ポンプ ・No.2余剰汚泥ポンプ ・宮下MP汚水ポンプ～2台 ・浄化センターUPS/バッテリー ・MP非常通報装置バッテリー交換～4箇所	雄武浄化センター機器分解整備 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ・ケーキホツバ重量計 ・計装設備点検 ・浄化センター電話機主装置	雄武浄化センター機器分解整備 ・2系曝気装置～2台 ・汚泥脱水機点検 ・中央監視装置点検 ・汚泥貯留槽液位計 ・MP非常通報装置バッテリー交換～2箇所	雄武浄化センター機器分解整備 ・2系曝気装置～2台 ・オコツナイ川MP汚水ポンプ～2台 ・ポンオコツナイ川MP汚水ポンプ～2台 ・自家発電設備 ・汚水MP水位計	雄武浄化センター機器分解整備 ・スカムポンプ ・No.1返送汚泥ポンプ ・No.2返送汚泥ポンプ ・No.1余剰汚泥ポンプ ・処理水ポンプ～2台 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・MP非常通報装置バッテリー交換～4箇所
	事業費(千円)	41,400	6,000	6,000	8,800	8,600
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	11,873	5,933	5,940	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
関 連 事 項	特定財源の名称					
	◎その他 ・一般会計繰入金	【評価・実績】	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備 ・No.3返送汚泥ポンプ ・No.2余剰汚泥ポンプ ・宮下MP汚水ポンプ～2台 ・浄化センターUPS/バッテリー ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	(実施内容等) 雄武浄化センター機器分解整備 ・汚水MP汚水ポンプ～2台 ・MP非常通報装置バッテリー交換～3箇所 ・ケーキホツバ重量計 ・計装設備点検 ※事務事業評価結果 A-継続-現状維持	(実施内容等)	(実施内容等)
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	9基	8基	7基	8基
		年度達成率	99%	99%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	29%	29%	29%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆		

事業名	雄武浄化センター機器分解整備事業	評価者	管理職 職氏名	課長	渡邊孝司
		評価者	作成者 職氏名	係長	永井栄次

様式1  
平成26年度実施  
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民。	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	分解整備機器数		
【抱える課題やニーズは】	機器故障による浄化センターの機能停止。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	汚水を浄化するための機器の安定稼働。		① 分解整備機器数/分解整備機器数の実績	目標年度	平成26年度
				目標値	8基
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	公共用水域の水質保全及び居住環境の向上。		②	実績値	7基
		達成度		87.5%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による修繕の実施。	民間業者に依頼し、機器の消耗部品の取替を含む分解整備を実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	公共用水域の水質保全、快適な居住環境を確保するためには、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	機器の消耗部品の取替を含む分解整備により、機器の延命が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	雄武浄化センターの機器運転管理を委託している民間業者に依頼したことで経費の軽減を図ったことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	公共用水域の水質保全、快適な居住環境の確保が図られたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
機器更新時期までの延命化を行うためには、当該事業を実施する必要があり、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
機器故障の未然防止のためには、継続・現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止